

# GCRゴーストメータ KGM-5602

KGM-5602は、受信したテレビ電波内のGCR信号を解析し、受信画像のゴースト劣化量を測定するGCRゴーストメータです。

KGM-5602は、お手持ちのWindowsPCで動作させることにより、テレビ電波のゴースト解析を行うことができます。

現在、国内のテレビ地上放送には、ゴースト除去のために基準信号（GCR-Gohst Cancel Reference）が挿入されています。

KGM-5602のハードウェアは、NHK殿により開発されたゴースト解析回路およびファームウェアが内蔵されています。地上波用のテレビチューナも内蔵していますので、VHF/UHFのテレビ電波を入力とした計測が行えます。また、映像入力端子にコンポジット映像信号を入力することにより、外部の受信系による映像信号の解析を行うことが可能となります。

ソフトウェアは、Windows98またはWindows95が稼働するPC上で動作します。

KGM-5602のハードウェアとPCとの間は、付属の専用RS-232Cケーブルで接続します。ソフトウェアは計測時の処理の他、データの保存/再生、プリンタへの結果印刷を行います。

KGM-5602は測定結果として、画像内のゴースト毎の遅延時間・SI比・極性を出力します。また、それぞれのゴーストのSI比に遅延時間と極性による加重を行ったものを積算して、受信画像のゴーストによる劣化量を示す値（Q-PDUR※）を算出し、合わせて出力を行います。

※従来のPDUR値は、それぞれのゴーストのDU比に遅延時間と高周波位相差による加重を行ったものを積算することによって得られます。

フィールドにおけるQ-PDUR値には、従来のPDUR値との間に強い関係があることがNHKの研究に報告されています。

## ■仕様

製品構成	ハードウェア	1式（コンピュータは別売です。）
	ソフトウェア	1式
	専用接続ケーブル（9 pinメスタイプ。コンピュータ側のRS-202Cポートが9 pin以外の場合は、別途変換ケーブルが必要）	
コンピュータ環境	P C	Windows対応（各社）
	O S	Windows98またはWindows95
	C P U	Intel Pentium相当以上を推奨
	メモリ	24MB以上を推奨
	H D D	インストール時約3 MB
	画面	640×480ドット以上、256色以上
	プリンタ	Windows対応（各社）
測定範囲	遅延時間	-2～42 $\mu$ s、DU比6dB以上
内蔵チューナ	V H F	1～12ch、UHF 13～62ch
寸法・重量	ハードウェア	320(W)×100(H)×290(D)mm、約4 kg

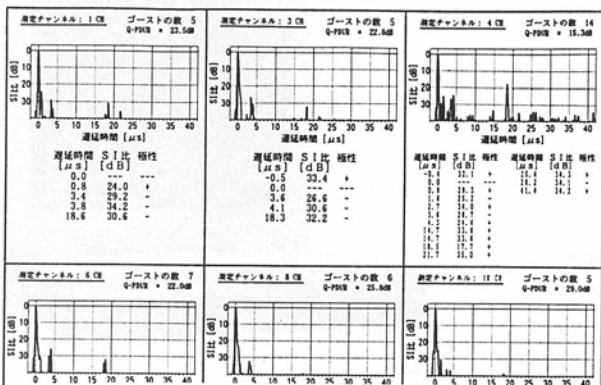


◀ プリント出力例

測定日 平成10年9月11日

ゴースト測定結果

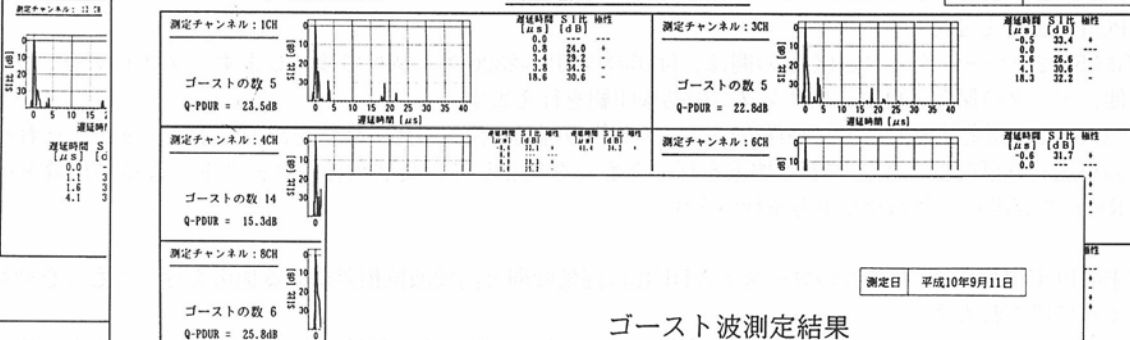
調査地点 P-1



ゴースト測定結果

調査地点 P-1

測定日 平成10年9月11日



ゴースト波測定結果

調査地点 P-2

